平成２８年度
赤穂市立赤穂中学校
「学校だより」

荒神台

NO.２７
平成２９年１月１０日発行
文責 校長（平 井 正 彦）

新年あけまして　おめでとうございます

どんな足跡を残しますか

３学期始業式　校長式辞（要約）

新年明けまして、おめでとうございます。

今は、だれもが新鮮な気持ちに包まれています。夢は大きく拡がり、希望が鮮やかに輝き、何かに挑戦できそうな、頑張ればできそうな、そんな前向きな気持ちになっていることと思います。

今日から始まる３学期は、みなさんの成長を具体的な行動で示しながら、次の学年へ「心」と「願い」を引き継ぐ３ヶ月です。自信を持って、より高い目標に挑戦し、願いを実現させ、次への一歩を踏み出す時でもあるのです。

さて、新しい世界チャンピオンが誕生しました。京都市で開催された国際ボクシング連盟（ＩＢＦ）スーパーバンタム級タイトルマッチで、だれにも負けたことがない世界王者に挑戦し、力もスピードも相手が上という関係者の予想をくつがえし、ランキング５位、本校卒業生のプロボクサー・小國以載（おぐに・ゆきのり）くんが、判定で世界王者を倒し、世界チャンピオンに輝いたのです。彼にとっては、13年間の努力が詰まったチャンピオンベルトです。きっと重たかったに違いありません。

彼は、特に目立つ生徒ではなく、普通の素直な中学生でした。３年生からボクシングを始め、体力づくり、練習など、自分を鍛える努力を積み重ね、アドバイスを素直に聞き入れ、できるまで何度も繰り返していく中で、ストレスや重圧に負けない強い意志と、倒れても這い上がる不屈の闘志が育っていったのではないかと思います。〔中略〕

私は、何かに思いっ切り打ち込んでいる人の姿を観たとき、「あんな生き方をしたいなあ」と思うことがあります。それは、その人の努力の結果として、有名であることや、地位が高いとか、お金持ちだということに魅力を感じるのではなく、打ち込める目標があり、それに向かって懸命に努力していることに魅力を感じるのです。

長い人生には、手抜きをしたり、やる気が起こらなくて、ダラダラと過ごしてしまう時もあります。一年中ずっと全力投球すれば、いつか限界が訪れ、身も心も疲れ果て、命の糸が切れてしまいます。人に迷惑をかけない範囲で緊張をゆるめる時があるからこそ、全身の神経を一点に集中させる時もあるのです。

でも、自分の命の糸が切れるときに、何をやったということもなく、全身の力を注ぎ込んだという想い出もなく、ただ、ご飯を食べ、困難から遠ざかり、できない理由を探し、時間つぶしをしてきたという気持ちが残るような生き方はしたくありません。

長い人生において､これは思いっ切りできた､そして、自分を大切にし、人も大切にし、人の役に立つことができたと言えるような生き方をしたいと思っています。たとえ不十分であっても、自分の生き方は、自分をごまかしたり、逃げたり、なまけたりする生き方ではなかったという気持ちで、人生を終えたいと思っています。

自分の未来は、これからが本番というみなさんには、何十年も先の話に聞こえるかもしれませんが、みなさん一人一人の人生は、もう始まっています。これまでの足跡を書き替えることはできませんが、一度しかない自分の人生をこれからどう生きるのか、生きがいを感じる人生をどう創っていくのかは、みなさんの気持ちの持ち方で、いくらでも変わっていきます。

みなさんは、自分の人生にどんな足跡を残していくつもりですか。

■　各ご家庭でも、これからのことについて、お子さんと話す機会をつくってください。ところで、お子さんの夢や希望はご存じですか。